

研究タイトル：

中世英国ロマンスの研究



氏名：	有坂 夏菜子 / ARISAKA Kanako	E-mail：	yagishita@oyama-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(文学)
所属学会・協会：	The International Courtly Literature Society, 日本英文学会, 日本中世英語英文学会, チョーサー研究会		
キーワード：	中世英文学, ロマンズ, プレトン・レイ		
技術相談 提供可能技術：	・中世英文学、特に下記のような物語詩に関すること		

研究内容：

研究の背景と目的

主に 14 世紀頃にイギリスで語られ、広く楽しまれていた「ロマンス」という物語詩がある。これらの物語は Middle English(中英語)で写字生によって写本に書かれ、文字をもって現在まで残されている。本研究では、口誦文学として人々の間で語り継がれたロマンスの語りの特性とその思想的側面に注目し、物語が果たしてきた社会的・精神的役割を検討することで、その文学的価値を再評価する。

○ロマンスとは？

- ・中世ヨーロッパにおける物語ジャンルの一つ。
- ・幅広い意味を持ち得るが、研究対象としている「ロマンス」は、主に中世英文学における特定の物語群を指す。

○ロマンスの分類について

- ・ジャン・ボデルによる分類(12 世紀末・フランス)
「フランスもの」、「ブリテンもの」、「大ローマもの」がある。
- ・その他の分類と特徴
「イギリスもの」や「ノンサイクルもの」がある。

※研究対象とする「ブレトン・レ(Breton Lay)」という物語群は「ブリテンもの」に含まれる。

(注)「ブレトン・レ(Breton Lay)」とは、ブリテン島およびフランス・ブルターニュ地方で語られた物語である。

ロマンスの語りと思想

ロマンスには、騎士道、冒険、恋愛、魔法といった多様な主題が織り込まれており、聴き手の想像力を刺激しながら物語が展開された。こうした物語には、当時の人々の価値観や世界観が色濃く反映されており、現代に生きる私たちにも通じる人間的な感情や願望が見出される。ロマンスは、単なる歴史的資料ではなく、時代を超えて人間の本質に迫る文学的遺産である。本研究を通じて、ロマンスが持つ語りの力と思想的深みを探ることで、中世文学の魅力とその現代的意義を再発見する契機となることを目指す。

researchmap: <https://researchmap.jp/read0204947>

研究紀要: https://www.oyama-ct.ac.jp/tosyo/researcher/022_arisaka_kanako.html

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)